

建設機械の騒音低減性能の評価項目と試験方法(案)

性能種別	性能評価項目			性能評価指標	評価項目を適用する騒音低減技術				試験方法		性能評価	
					ANC	油圧 ブレーカ	振動 コンパクタ	振動 ランマ	試験条件	運転条件		
基本性能 (環境性)	A-1	発生音による周囲への影響の低減	周囲の騒音レベルの低減	等価騒音レベル $L_{Aeq,T}$ (dB)	騒音低減技術を用いた対策型の騒音性能を求めること	適用	適用	適用	適用	騒音低減技術の種類により、右欄の運転条件に定める規程に準ずる。	騒音値は低い方がよい	
	A-2		音響パワーレベルの低減	音響パワーレベル L_{WA} (dB)		適用	適用	適用	適用			ANCの評価では、測定点を4つ追加した10個の測定で測定する。追加する測定点は、JIS A 8317-1:2010に定める測定点のうち、高さ1.5mの4つの測定点を測定中心より45度ずらした位置とする。
	A-3		特定の周波数帯域の低減	1/3オクターブバンド騒音レベルの周波数特性(dB)		適用	—	—	—			
品質	B-1	使用者の違いによる効果の有無(騒音低減効果の再現性の有無)	騒音低減効果の再現性(音響パワーレベルの低減)	音響パワーレベル L_{WA} (dB)	オペレータが変わることにより、騒音低減性能に変わりがないこと	適用	適用	適用	適用	騒音低減技術の種類により、右欄の運転条件に定める規程に準ずる。オペレータの人数は2名とする。	効果の再現性がある方がよい	
	B-2		騒音低減効果の再現性(特定の周波数帯域の低減)	1/3オクターブバンド騒音レベルの周波数特性(dB)		適用	—	—	—		効果の再現性がある方がよい	
安全性	C-1	オペレータの耳元の騒音レベルの低減	騒音レベルの低減	等価騒音レベル $L_{Aeq,T}$ (dB)	騒音低減技術を用いた対策型の騒音性能を求めること	適用	適用	適用	適用	騒音測定点の位置はJIS A 8317-2:2010に準ずる。	騒音値は低い方がよい	
	C-2		特定の周波数帯域の低減	1/3オクターブバンド騒音レベルの周波数特性(dB)		適用	—	—	—		騒音値は低い方がよい	
経済性	D-1	コスト比率(初期投資)	騒音低減技術を用いることによる本体、付属品、設置にかかる費用	基礎価格(円)	従来と比較し騒音低減技術を用いることによるコストが少ないこと	適用	適用	適用	適用	応募時の申請書類、資料等にて確認する(別紙2)。	低コストで高い効果があればよい	
	D-2	コスト比率(運転費用・維持管理費用)	騒音低減性能を維持するためにかかる費用	燃料代・電気代/月(円) 消耗品・メンテナンス費用/年(円)		適用	適用	適用	適用		応募時の申請書類、資料等にて確認する(別紙2)。	低コストで高い効果があればよい